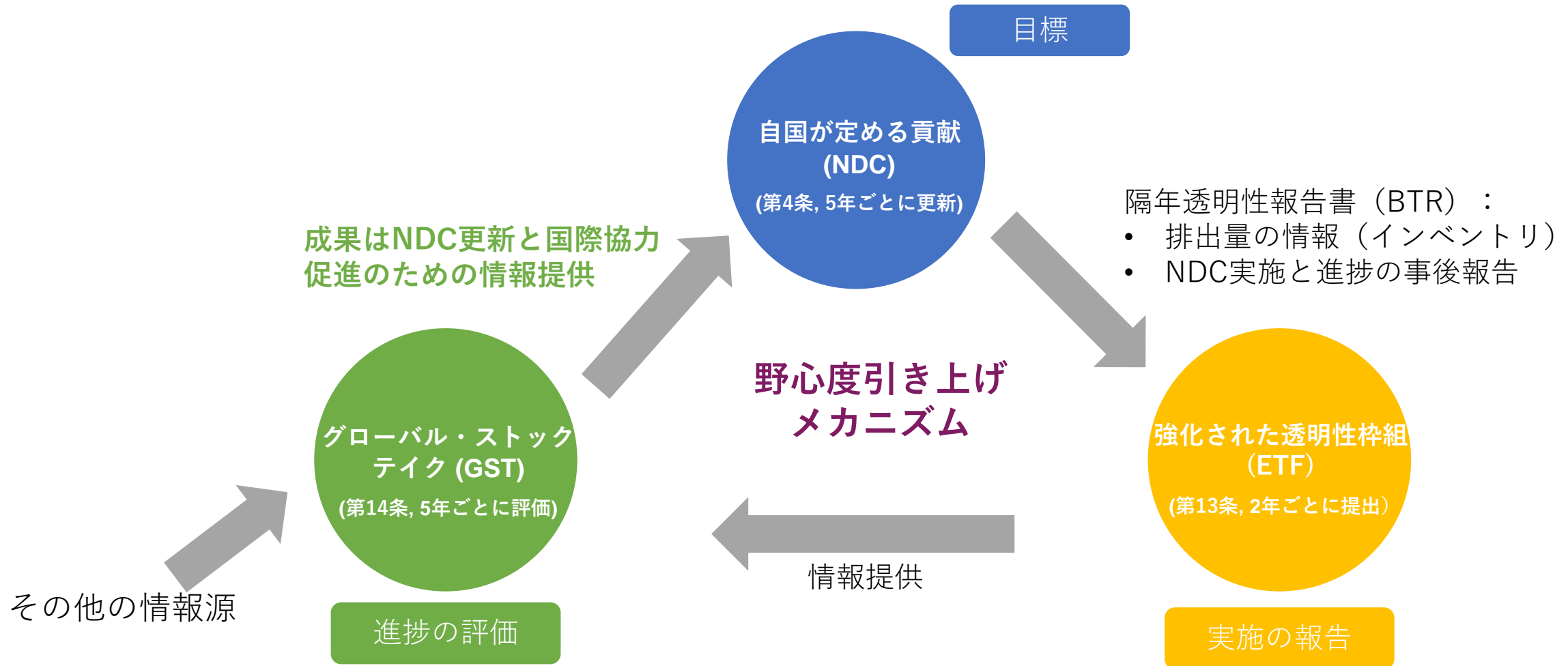


# グローバル・ストックテイク (GST) COP27の結果と2023年の展望

気候変動とエネルギー領域 プログラムマネージャー  
津久井 あきび

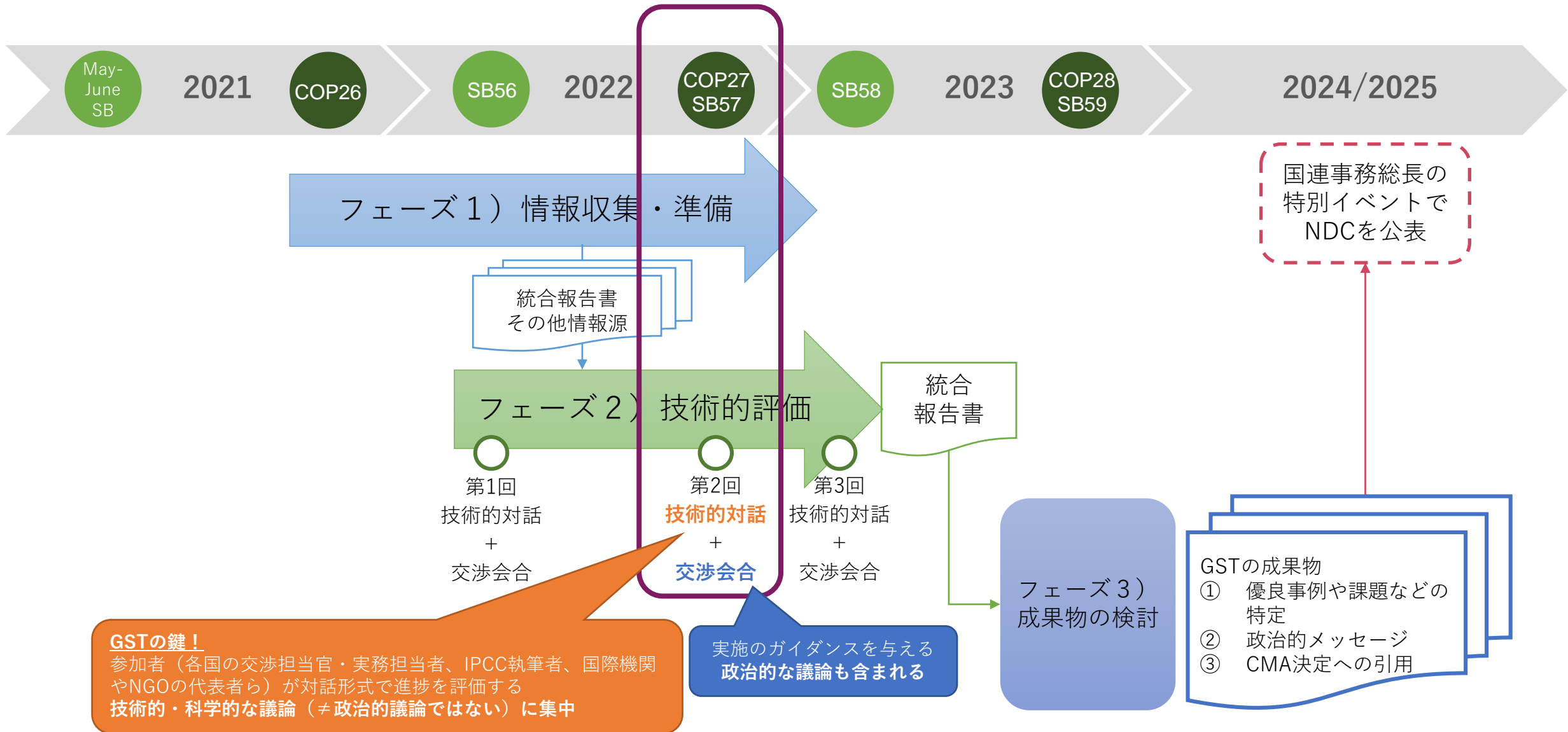
# GST：パリ協定の長期目標達成に向けた世界全体の進捗を評価する仕組み



略語  
NDC (Nationally Determined Contributions): 自国が定める貢献  
ETF (Enhanced Transparency Framework): 強化された透明性枠組み  
BTR (Biennial Transparency Report): 隔年透明性報告書  
GST (Global Stocktake): グローバル・ストックテイク

※参照: Tamura et al (2016). Empowering the Ratchet-up Mechanism under the Paris Agreement: Roles of Linkage between Five-year Cycle of NDCs and Long-term Strategies, Transparency Framework and Global Stocktake

# 第1回GSTスケジュール：COP26で開始し、COP28で終了。現在評価の真っ最中。



# COP27におけるGSTの全体像

## 第2回技術的対話の実施概要

- 第1週目に5日間に渡り開催された
- 開閉会プレナリー、ラウンドテーブル、ワールドカフェ、フォーカスエクステンジの4種類の会議形式が用意された
- 参加者（各国の交渉担当官・実務担当者、IPCC執筆者、国際機関やNGOの代表者ら）が対話形式で進捗を評価した



ラウンドテーブルの様子 (IGES大田撮影)



ワールドカフェの様子 (IGES津久井撮影)

## 交渉会合における主な合意事項

- 2023年のフェーズ3「成果物の検討」に向けた追加セッションの開催等に合意した

## 第2回技術的対話の振り返り

### 事前注目ポイント1. 対話のスタイルは対話の内容と質にどのような変化を与えるのか？

- 第1回技術的対話ではステートメント形式の発言も多く建設的かつ具体的な議論に欠けた。フォーマットの改善により対話に集中できるか？
  - ラウンドテーブル：（第1回技術的対話）大テーブル1つで20個以上の”キーワード”で議論⇒（第2回技術的対話）4つの小グループに分け、テーブル毎にトピックを絞って対話を実施。
  - ワールドカフェ：（第1回技術的対話）12個のトピック⇒（第2回技術的対話）20個のトピックに増加

**結果：少人数かつ絞り込まれたテーマにより、議論の焦点がより明確になった。対話の形式は場の雰囲気、対話の内容と質に大きな影響を与えた**

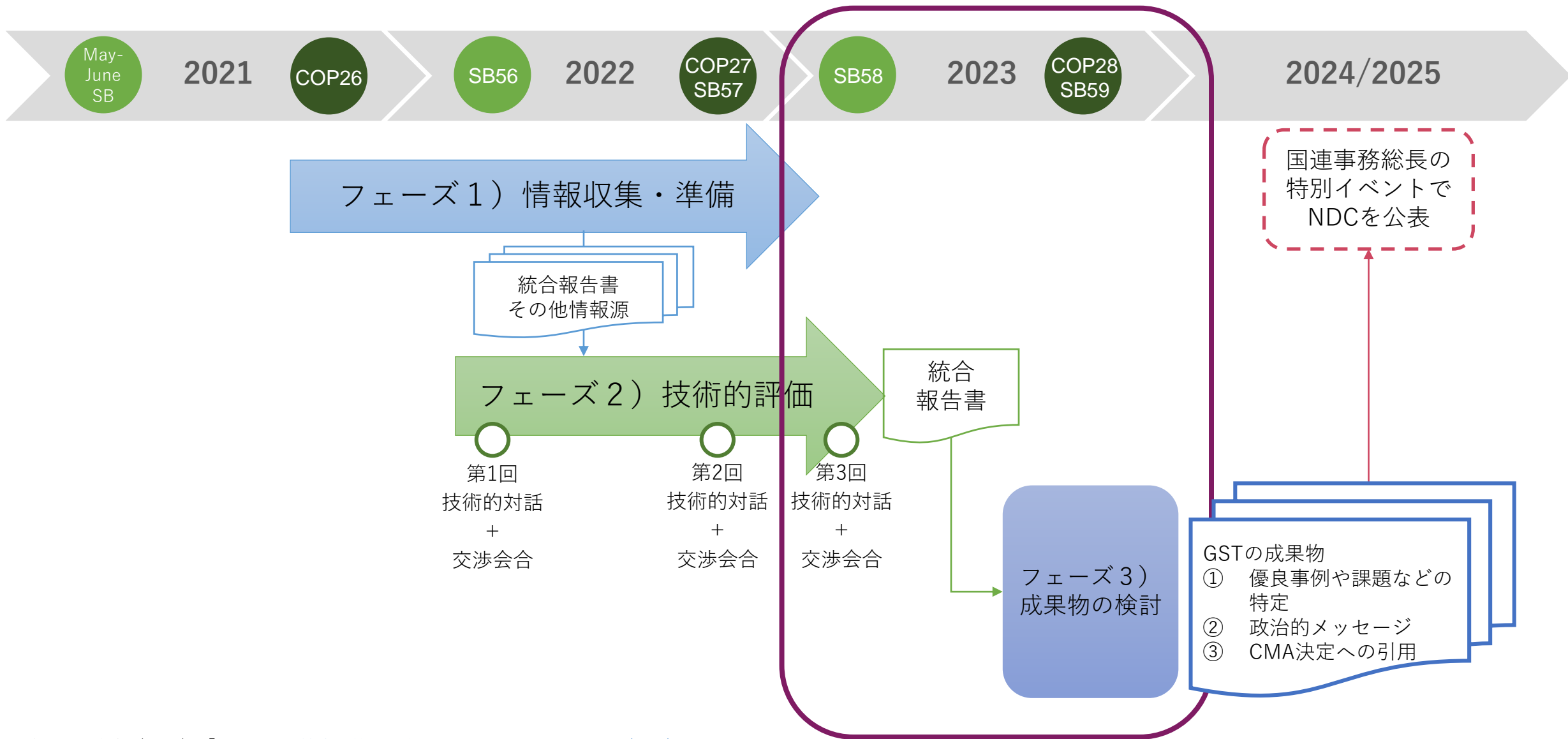
### 事前注目ポイント2. 特定されたギャップはどのように埋められるか？

- 第1回技術的対話では、パリ協定の実施におけるギャップに対し共通の理解を持つことが促された。ギャップを埋めるための行動について対話を重ねられるか？

**結果：テーマ別セクター別議論により、ギャップを埋めるための具体的な対策や事例が多く共有された**

- ✓ 緩和：メタン削減に向けた途上国への政策的・技術的支援
- ✓ 適応：適応データの入手可能性や分析能力の強化に向けた地方自治体、民間部門、草の根との協力
- ✓ 資金：民間資金増加に向け、国別適応計画に民間部門を含める

# 2023年の注目ポイント：GSTの成果が出る



## フェーズ3「成果物の検討」

- 「成果物の検討」はハイレベルイベントで実施。
  - ハイレベルイベントの議長はハイレベル委員会（CMA議長・SBI議長・SBSTA議長）。
- ⇒各国の閣僚級が参加するイベントで「技術的評価」の結果が意味するところを議論する



### GSTの成果物

1 優良事例や課題などの特定

技術的観点からNDC 更新と国際協力強化に必要な情報を提供

2 政治的メッセージ

NDC 更新と国際協力強化をより強く前進させるための政治的な決意・意欲

3 CMA決定

優良事例や課題、政治的メッセージに基づき、各国に対策強化を促す

### 「成果物の検討」に向けたギャップ

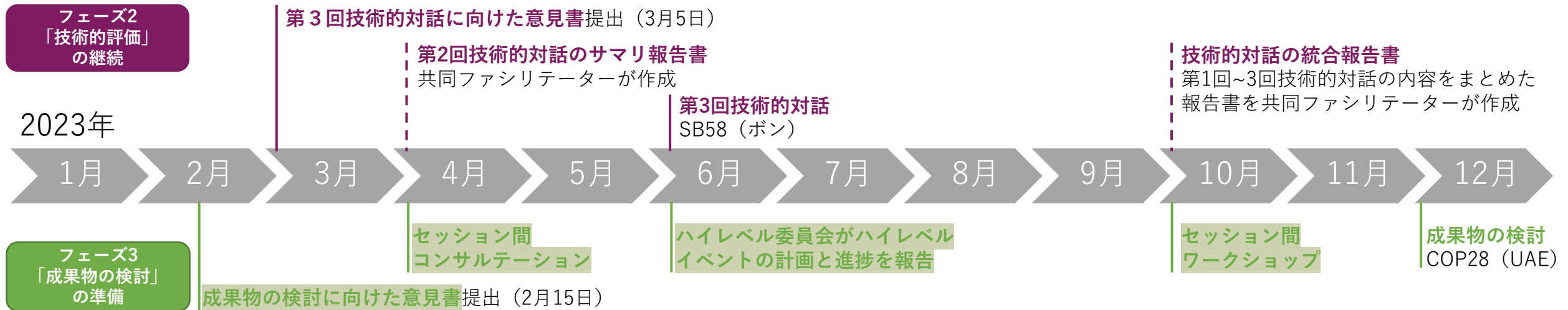
- 政府参加者のレベル：フェーズ2「技術的評価」は交渉担当官・実務担当者。「成果物の検討」は閣僚級。  
ハイレベルイベントに向け各国閣僚級のGSTへの関与を深めていく必要がある
- 成果物の中身：GSTの成果物の構成や内容は決まっていない。野心を引き上げ国際協力を強化するには、どのような成果物が必要なのか検討する必要がある。



# 「技術的評価」から「成果物の検討」へ

COP27の主な合意事項：

- 2023年に2回の追加セッションを実施
  - 4月コンサルテーション（対面又はオンライン）
  - 10月ワークショップ（対面）
  - 成果物の検討に向けた意見書（サブミッション）の提出は2月15日締め切り
- ハイレベル委員会に対し、ハイレベルイベントの計画と進捗をSB58で報告するよう要請



- 2023年頭から「成果物の検討」に向けた準備を進める
- ハイレベル委員会の早期関与を促す
- UAEのイニシアティブにも注目



ご清聴ありがとうございました。

気候変動とエネルギー領域／プログラムマネージャー

津久井 あきび

**IGES** Institute for Global Environmental Strategies  
公益財団法人 地球環境戦略研究機関